

インターバンクの声（2017 年 9 月 1 日）

東京市場からロンドン市場にかけて 110 円台中盤で安定推移していた円相場だったが、ニューヨーク市場でドルが下落してしまった。

7 月の個人消費支出 (PCE) 物価指数が前月から伸びなやみ、FRB が目標とする 2% には依然遠い結果が分かるとドルが売られ始めた。

また米金利が低下し始め、ムニューシン米財務長官が「貿易に関しては一段と弱いドルが我々にとっては多少好ましい」との発言が伝わったのがダメ押しとなった。

4 月に地政学リスクが懸念されてドルが対円で 108 円台まで売られていた際は、トランプ大統領の「ドルは強くなり過ぎている」との発言も影響していたが、その際、財務長官は「強いドルは長期的には良いことだ」と説明しており、その後のドルの反発につながった。

昨日の発言は、貿易面についてのプラスとマイナスを述べたようだが、対日貿易赤字が以前のように巨大なわけではなく、あまり深刻に捉える必要はないと思われるが、昨日はドル売りに反応した。ただ、ドル売りが続くも止まるもやはり今晚の米雇用統計次第だ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。